

## 基地と行政

担当教員 照屋 寛之、他 4 名

対象学年 1 年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

沖縄の場合、県はもちろんのこと、多くの基地所在市町村は基地あるが故に派生する行政課題に多くの時間と職員をあてなければならず、本来の住民サービスに徹することが他府県の自治体ほどはできないという大きな損失がある。本講義では、沖縄の抱えている基地問題を様々な立場から考えて見たい。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション (照屋)
2	行政は基地問題にどのようにかかわっているのか(照屋)
3	思いやり予算って何だろう (照屋)
4	普天間基地の危険性 (ビデオ使用) (照屋)
5	基地外居住の問題点 (照屋)
6	普天間飛行場の歴史的背景と基地の概要 (山内)
7	普天間飛行場の返還に向けた市の取り組み (山内)
8	普天間飛行場の移設先① (新里)
9	普天間飛行場の移設先② (新里)
10	普天間飛行場の跡地利用① (比嘉)
11	普天間飛行場の跡地利用② (比嘉)
12	沖縄の米軍基地の意味を考える (府本)
13	沖縄の米軍基地の課題 (住民生活と環境問題) (府本)
14	沖縄の求める日米地位協定の見直し (府本)
15	SACO合意と米軍再編(府本)
16	まとめ (照屋)

### 【履修上の注意事項】

単位のための受講ではなく、一人の県民として、市民として沖縄の基地問題を考えてみたい学生の受講を望む。そのような学生であれば、受講時点では基地問題に関する知識があるかどうかはいつさい問わない。

### 【評価方法】

レポート、感想文などに出席状況を加味して総合的に評価する。

### 【テキスト】

プリントを使用

### 【参考文献】

屋良朝博『砂上の同盟』沖縄タイムス社 前泊博盛『もっと知りたい！本当の沖縄』岩波ブックレット

## 基地と国際関係

担当教員 佐藤 学

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

普天間基地をめぐる国際関係を考える場を提供する。

### 【授業の展開計画】

- 第1部 普天間基地の歴史：国際関係の観点から
- 第2部 米軍再編と普天間基地移設問題：経緯
- 第3部 米国世界戦略と米国内政治の現状
- 第4部 沖縄の「戦略的重要性」と「抑止力」
- 第5部 東アジアの現状
- 第6部 世界の中の沖縄：その将来像

現在進行中の問題を扱うために、適宜、必要に応じて新状況を織り込みながら講義を進める。  
全体を通して、普天間基地が置かれた国際環境を理解する機会を提供したい。

### 【履修上の注意事項】

新聞を継続的に読むことが必須である。

### 【評価方法】

レポートを課す。

### 【テキスト】

使用しない。講義レジュメを配布する。

### 【参考文献】

適宜紹介する。

## 基地と自然環境

担当教員 小川 護、名城 敏、渡辺 康志

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

沖縄は本土復帰39年を迎えるも、沖縄における米軍基地にかかわる諸問題はあまり進展がない。とくにその象徴として取り扱われているのが普天間基地である。本講座では、基地の取り巻く諸問題を考えるキーワードとして「自然環境」を取り上げ、さまざまな視点から考察する。

### 【授業の展開計画】

日 程	担当	テーマ
① 4月9日	渡辺康志	戦前の本島撮影空中写真解析とGIS①
② 4月16日	渡辺康志	戦前の本島撮影空中写真解析とGIS②
③ 4月23日	渡辺康志	戦前の本島撮影空中写真解析とGIS③
④ 5月7日	渡辺康志	自然環境 (1)
⑤ 5月14日	渡辺康志	自然環境 (2)
⑥ 5月21日	渡辺康志	自然環境 (3)
⑦ 5月28日	渡辺康志	自然環境 (4)
⑧ 6月4日	渡辺康志	自然環境 (5)
⑨ 6月11日	名城敏	自然環境 (6)
⑩ 6月18日	名城敏	自然環境 (7)
⑪ 6月25日	名城敏	自然環境 (8)
⑫ 7月2日	名城敏	自然環境 (9)
⑬ 7月9日	小川護	自然環境と土地利用
⑭ 7月23日	小川護	宜野湾における土地利用の変化①
⑮ 7月30日	小川護	宜野湾における土地利用の変化②

### 【履修上の注意事項】

それぞれの講義の概要と講義日程については、第1回目の授業で配布される資料を参考にすること。その他、履修上でわからないことは小川までお問い合わせください。

### 【評価方法】

各講師ごとの講義について、レポートを提出してもらい、それに基づき成績をつける。とくに出席を重視する。レポートについては各講師の先生から説明があるのでそれに従うこと。

### 【テキスト】

それぞれの講義の中でその都度紹介致す。

### 【参考文献】

それぞれの講義の中でその都度紹介致す。

## 基地と住民運動

担当教員 石川 朋子

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

本講義では、「平和愛好の民」と称されていた琉球・沖縄に軍事基地が建設され、住民は沖縄戦に巻き込まれたうえに、戦後65年、外国の軍隊に「軍事植民地」化された中で生活を強いられている。本来「平和愛好の民」といわれながら、沖縄住民はなぜ、強大な軍事権力の意のままに、戦争に加担、あるいは加担させられた形になってきているのであろうか？これまで戦後史家などが、米軍に対する「島ぐるみ土地闘争」等には照明をあてて、沖縄住民の抵抗の歴史を描いてきた。

### 【授業の展開計画】

(ねらいの続き)しかし、本講義では、住民が権力に絡め取られて「抵抗意志」を発揮できないメカニズムを最近入手した資料なども用いて明らかにし、真の「住民運動」が形成される要素を探っていく。

#### [授業の展開計画]

- 第1週 「平和愛好の民」と称されてきた琉球・沖縄が、軍事基地・軍隊の配備に抵抗した歴史
- 第2週 徴兵忌避の歴史と軍事基地の建設
- 第3週 絶対的軍事権力支配の下での住民の行動
- 第4週 絶対的軍事権力下での抵抗の芽生え
- 第5週 米軍の国際法違反の軍事基地建設と住民
- 第6週 「銃剣とブルドーザ」と弾圧化の住民
- 第7週 軍事基地建設と抵抗運動
- 第8週 ベトナム戦争と住民の行動
- 第9週 法的「銃剣とブルドーザ」と住民の行動
- 第11週 国家権力による戦争被害の捏造
- 第12週 軍隊の犯罪を容認させる権力のトリック
- 第13週 軍事の象徴である「靖国神社」と住民
- 第14週 「有事法制」と戦場動員の意識形成
- 第15週 軍事に抗う新たな住民の運動
- 第16週 期末試験

### 【履修上の注意事項】

- ・私語、携帯電話の使用など授業の妨害になる行為は認めません。
- ・毎日、新聞の一面、二面、第二社会面、社会面、と社説に目を通すこと。
- ・配付したプリントと指定したテキストを熟読すること。講義時には、それらを持参すること。

### 【評価方法】

出席兼ミニレポート用紙に毎回講義に関して、五分程度でコメントを書いて提出させる。それにより出席状況と講義参加意欲、レポート、期末試験を総合して判断、評価する。  
出席・授業参加状況（30%）、レポート（40%）、試験（30%）。

### 【テキスト】

『ピース・ナウ沖縄戦—無戦のための再定位』（法律文化社）。さらにプリント・レジュメを配布する。

### 【参考文献】

『平和学の現在』岡本三夫・横山正樹編/『平和学のアジェンダ』岡本三夫・横山正樹編/『オキナワを平和学する』石原昌家・仲地 博・ダグラス ラミス編/『新版平和学の現在』岡本三夫・横山正樹編

## 基地と生活

担当教員 石川 朋子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

「基地問題」を、基地に隣接する環境で暮らす生活者として考えていく。

### 【授業の展開計画】

- I. 基地の概況
- II. 軍用機墜落と大学
- III. 沖縄の基地問題
- IV. 宜野湾市と基地
- V. 基地に隣接する生活
  - (1) 北谷町と基地
  - (2) 沖縄市と基地
  - (3) 北部地域と基地
- VI. 基地と「カネ」

※以上のような項目で、講義を実施していく予定であるが、変更もあり得る。  
また、フィールドワークを実施する場合もある。

### 【履修上の注意事項】

私語等、講義の妨害になる行為を認めない。

### 【評価方法】

出席、レポート、テスト等の総合評価

### 【テキスト】

講義は、毎回配布するレジュメと資料に沿って行う。

### 【参考文献】

講義のなかで適宜紹介する。

## 基地と歴史

担当教員 村上 有慶

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

普天間基地に隣接する大学の学生として、また今後の沖縄社会を担ってゆく若者として、沖縄に存在する米軍基地や自衛隊基地に関する歴史的事実を把握しておくことは欠かせない素養である。基地と住民の生活の問題から、安保条約による沖縄への基地の集中が、現代日本社会において理不尽な事実であることを理解する。基地と向かい合いながら、平和な沖縄をどのように構築してゆけばよいのかを考える機会としたい。一人の沖縄県民として、日本に対して発言できるだけの基本的知識を身につけ、沖縄県民として恥ずかしくない状態にしたい。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	沖縄戦の基本的知識
2	米軍基地の基礎知識
3	在沖米軍の施設建設の歴史一覧と面積および軍用地料
4	米軍占領下での土地取り上げの歴史
5	日本復帰後の土地取り上げの仕組み
6	特措法改悪と土地取り上げの異常性
7	米兵による事件事故の実態と日本政府の対応
8	日米地位協定の内容と抜本的見直し
9	雇用問題と沖縄米軍基地雇用
10	基地依存経済と沖縄の自立
11	基地振興策の取り組みと市町村経済
12	1996年少女暴行事件以降の最近における沖縄の動き
13	在沖自衛隊問題と最近の増強
14	普天間の辺野古移設問題とその闘い
15	高江におけるヘリパッド建設の問題とその闘い
16	学科試験

### 【履修上の注意事項】

毎回の授業を、基地関連の一テーマ簡潔という形で話をするので、欠席ないように聞くこと。それがそのまま試験問題となる。資料を十分に配るので、整理して考えること。

### 【評価方法】

100点満点で、60点以上を合格とする。出席は、履修規定に沿って三分の二出席を単位履修者とする。

### 【テキスト】

基本的に、毎回、印刷して配布する資料を使用する。参考図書はその都度紹介をする。

### 【参考文献】

大城将保他著「観光コースでない沖縄」高文研、村上有慶他「沖縄修学旅行」高文研、新崎盛暉「沖縄問題二十年」岩波新書、森口かつ「安保が人をひき殺す」高文研